

一般社団法人福岡県学校歯科医会 News Letter

FUKUOKA ASSOCIATION OF SCHOOL DENTISTS

Vol.14

2021年11月発行

CONTENTS

図画・ポスター審査会	1
■特集「フッ化物の応用」第1回「なぜむし歯になるのか」	2~3
第85回全国学校歯科保健研究大会	4
普及指導委員会紹介	5
第26回福岡県学校歯科保健研究大会のご案内	6
令和3年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会	7
物故会員、事業報告、編集後記	8

図画・ポスター審査会

令和3年9月11日（土）福岡県歯科医師会館4階第4会議室において、福岡県内の各地区から出品していただいた図画・ポスター審査会が開かれました。

審査員に福岡県教育センター 産業・情報教育部情報教育班 主任指導主事の井上準一先生をお招きし、平瀬会長、岡村専務理事の立会いの下、各賞を選出しました。

審査作品は、加盟団体での審査を経て厳選された幼稚園4点、小学校（低学年）18点、小学校（高学年）17点、中学校14点、高等学校2点、特別支援学校3点、計58点の素晴らしい作品の数々でした。

どの作品も丁寧に描かれており、子供たちの感性が素直に表現されていました。

それらの作品は、各部門ごとに会長賞、教育委員会賞、優秀賞、優良賞、佳作、入賞を決定しました。

会長賞、教育委員会賞以上の作品は、例年であれば福岡県学校歯科保健研究大会で表彰式が行われますが、今年度は表彰のみとなります。

入選以上の作品については福岡県学校歯科医会のホームページに掲載しています。

また、図画・ポスター・標語コンクール特集号は各学校に送付し「いいな、いい歯。」週間に向けての啓蒙活動に利用して頂いています。

審査員の井上準一先生には審査に協力をいただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

図画・ポスター・標語コンクールは各郡市区の協力の下、長年にわたって継続している事業であり、児童生徒の歯や口の健康の啓蒙活動としては非常に有益であると思われます。



第1回 「なぜむし歯になるのか」

理事 入江 祐彰

令和2年度の学校健診における12歳児のDMFTは全国平均で0.8本、福岡県の平均では1.07本でした。DMFTは処置歯や抜歯も含めた一人当たりの永久歯の平均むし歯経験歯数で、児童・生徒の口腔内の健康状態を表す代表的な指標のひとつで年々減少傾向にあります。福岡県は全国平均に比べて例年数値が高い傾向にありますが、令和2年度は前年度（1.01本）よりも増加しています。不慣れなコロナ禍における健診で正確なデータが取れなかった可能性もありますが、休校や自粛生活による生活習慣の乱れや受診控えなどの影響も否めず、今こそむし歯の予防がより一層大切な時だと思われま

す。福岡県学校歯科医会では事業計画の一つに「科学的根拠に基づくむし歯予防・フッ化物洗口のEBMの確立」を掲げており、今後フッ化物洗口推進・啓発のためのデータの収集やパンフレットなどの資料の作成を予定しております。そのためニュースレターでも「フッ化物の応用」をテーマにした連載記事を企画しました。記念すべき第1回目は「なぜむし歯になるのか」です。読者の皆様にとっては釈迦に説法といった感じですが、フッ化物を応用するにあたり現状を踏まえ共通の理解が必要と考え、ここから始めることといたしました。

むし歯の主な原因であるミュータンス菌は乳幼児期に大人の唾液を介して口腔内に住み着き、食物に含まれる砂糖（ショ糖）から多糖を合成してそれに細菌が付着して歯の表面にプラークを形成します。むし歯はプラーク中のミュータンス菌などの細菌が、食物中の糖分（ショ糖、果糖、ブドウ糖など）を分解して酸を産生し、プラーク内の酸性度（pH）が5.5以下になることで歯の表面からカルシウムやリンが溶け出して脱灰が起こり発生する病気です。むし歯の発生を増加させる因子は次の4つです。

①むし歯菌

細菌の塊であるプラークを機械的に除去するためにも、学校歯科医としては児童・生徒に正しいブラッシングの方法を身に付けさせるなどの保健指導が望まれます。

②糖 分

食事における糖分の摂取制限が大事です。WHO（世界保健機関）によると糖分の摂取量を総エネルギー摂取量の10%未満（理想的には5%未満）にすることで、一生を通してむし歯のリスクを最小限に抑えることが出来るとのこと

③時 間

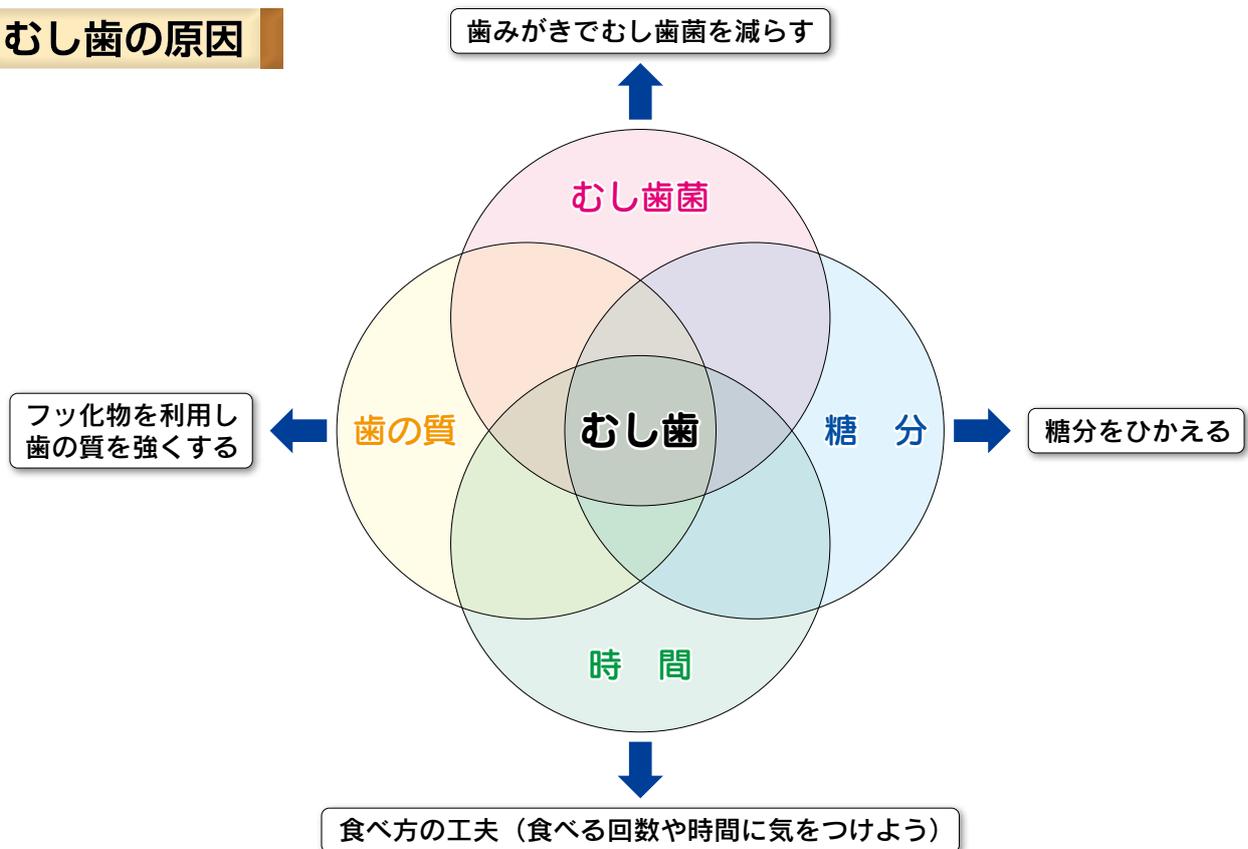
歯の表面が酸にさらされる時間（食事の回数）を減らすことが重要です。通常は食後にむし歯菌により酸が産生されてプラーク内のpHが酸性に傾いても、唾液には中和作用があるので時間をかけて中性に戻り、その後唾液中のカルシウムやリンが歯の表面に沈着して再石灰化が起こりま

す。それが間食を多く取ることでプラーク内のpHが元に戻れずに酸性に傾いた状態が長く続くため、歯の再石灰化が起こらずにむし歯が発生・進行しやすくなります。そのため、習慣的飲食物や間食の取り方などの食生活指導が必要となってきます。そして最後に・・・

④歯の質

歯の質の強化です。乳歯や幼若永久歯の歯質は脆弱です。それを強化する方法がフッ化物の応用です。以下、次号に続きます。

むし歯の原因



4つの方法を組み合わせることによって、より良いむし歯予防効果を得ることができます

参考文献

- ・「生きる力を育む学校での歯・口の健康づくり」 日本学校保健会
- ・「学校歯科医の活動指針 平成27年改訂版」 日本学校歯科医会
- ・「令和2年度福岡県歯・口の健康診断結果統計調査報告書」 福岡県学校歯科医会
- ・「学校歯科医ハンディノート 2018」 福岡県学校歯科医会
- ・「学校歯科保健の実際」 福岡県学校歯科医会
- ・“Sugars and dental caries” (<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/sugars-and-dental-carries>) World Health Organization

令和3年10月21日（木）14:00～19:00
「第85回全国学校歯科保健研究大会」がオンラインにより開催された。本会からは平瀬会長、三箇副会長、岡村専務理事、安藤理事、入江理事、井尾監事、白木が参加した。

本年は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの開催となった。開会式では、川本 強日学歯会長の挨拶につづき、大会実行委員会 鈴木 博会長により開会宣言がなされた。全日本学校歯科保健優良校表彰では、福岡県からは春日市立春日北小学校が奨励賞を受賞し表彰された。

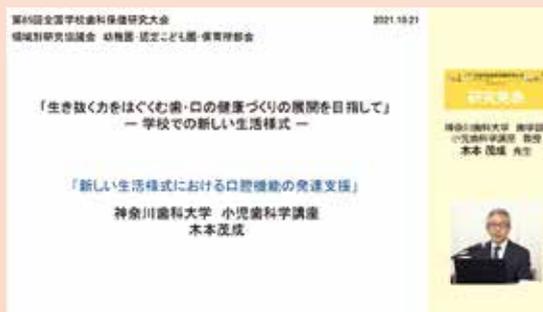
つづいて、東京藝術大学美術学部芸術学科 美術解剖学研究室 布施 英利教授により「芸術と解剖学の間に」というテーマで特別講演が行われた。講演では、ルネッサンス時代の画家レオナルド・ダ・ヴィンチの美術の制作や研究だけにとどまらず、解剖学、地質学、植物学、天文学、数学なども行った活動について話され、その様なレオナルド・ダ・ヴィンチの「芸術と解剖学の間に」に存在した思索について述べられた。シンポジウムでは「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して～学校での新しい生活様式～というテーマで執り行われた。ポスター発表では、「教育現場における効果的な手洗い指導の取り組み」という演題での大手前短期大学歯科衛生学科のポスター発表をはじめ非常に興味深いものがあった。

大会趣旨にもあるように、学校における歯みがきについても、その実施にあたり「新しい生活様式」に基づく歯みがきの仕方や工夫などについて、正確な情報を求める声が多くあった。それに応えるべく、迅速で正確な情報の発信が必要であると再認識した。

閉会式では次期開催県である山梨県歯科医師会会長へ「学校歯科の鐘」が渡された。

大会ライブ配信後、19時よりオンデマンドにて各部会の発表が行われた。

私が参加させていただいた幼稚園・認定こども園・保育所部会でも、やはり新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、歯科保健活動においても「新しい生活様式」に沿った形での取り組みに変更しながら実施されていた。また、子どもの口腔機能の発達にも様々な弊害がもたらされており、幼稚園や保育園、学校歯科医、保護者の連携がより重要になっている事について発表された。



普及指導委員会紹介



常務理事
菅 義浩
(田 川)



委員長
井上良太郎
(筑 紫)



副委員長
田村 昌彦
(浮 羽)



委 員
古賀 斉
(久留米)

福岡県学校歯科医会普及指導委員会の紹介です。令和3年6月定時総会終了後から新体制になりました。菅義浩常務理事に取りまとめをしていただき、委員3名で活動しています。

今年度の事業計画といたしまして、

- (1) 学校歯科保健事業に関する普及指導
- (2) 加盟団体の指導啓発事業への協力
- (3) スポーツ歯学（マウスガード等）についての研修会の開催
- (4) 「学童期むし歯予防推進事業」への協力
- (5) 学校歯科健康診断 IT 化の促進

を予定しております。

只今、(4)「学童期むし歯予防推進事業」への協力に関しまして、フッ化物洗口のEBM（科学的根拠に基づいた医療）の推進について、統計調査委員会、広報委員会と共同で協議をしています。このことについての決定事項に関しましては、ニュースレターにて、先生方にお知らせしたいと思っています。

例年、普及指導委員会では県学歯主催にて1月に歯・口の外傷、及びスポーツマウスガード講習会を開催していますが、昨年度以降、新型コロナウイルスの影響にて、研修室が使用出来ないため延期が続いています。

現在、学校スポーツにおいて、スポーツマウスガードは口腔外傷及び脳震盪の抑制等を目的に、装着が義務付けられている種目が多くなり普及しつつあります。

普及指導委員会では、ポイントをついた、わかりやすい、実技重視の講習会を委員一同、計画、実施していく所存です。

講習会再開の折には、是非、皆様に受講して頂けるよう鋭意努力してまいりますので、ご参加の程、宜しくお願い致します。

普及指導委員会 委員長 井上 良太郎



昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全国的に各種イベントが中止となりました。福岡県学校歯科医会もやむを得ず、第25回福岡県学校歯科保健研究大会が中止に追い込まれましたが、本年度は感染予防対策を充分に行い、ソーシャルディスタンスを確保し入場人数を制限させて頂いた上で、第26回福岡県学校歯科保健研究大会を令和3年11月20日（土）に開催します。

今回は「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」～望ましい生活習慣の育成と生きぬく力～を主題としています。

昨今、生活習慣病の予防は国民的な議題であり、他律的行動から自立的行動への転換期である学齢期に望ましい生活習慣を育成し「生きる力」を身につける事は大変意義があることです。

そこで、北九州市立清水小学養護教諭 宍戸直子先生、鞍手町立古月小学校養護教諭 有吉直子先生両先生による実践活動報告、福岡県学校歯科医会副会長 永江正廣先生による基調講演、日本学校歯科医会会長 川本強先生による特別講演を予定しております。なお、本年度の研究大会では、コロナ禍という事態でありますので、対面方式及び録画方式によるWeb配信で開催を予定しております。

第26回 福岡県学校歯科保健研究大会



と き 令和3年11月20日（土） 受付 12:30より
13:00~17:00

ところ 福岡県歯科医師会館 5階 大ホール
(福岡市中央区大名1丁目12-43 TEL092-714-4627)

※オンライン同時開催を予定しておりましたが、録画配信に変更させていただきます。

一般社団法人 福岡県学校歯科医会

実践活動報告①

「歯と口の健康づくりを通して、生活習慣を見直し健康な心と体をめざす子どもの育成」

北九州市立清水小学校 養護教諭 宍戸直子

実践活動報告②

「食の大切さを学び、自らの生活に生かす子どもの育成」

～学び(学ぼう!)と実践(やってみよう!)を取り入れた食の指導の充実を通して～

鞍手町立古月小学校 養護教諭 有吉直子

基調講演

「Go To The School !!」

一般社団法人福岡県学校歯科医会 副会長 永江正廣

特別講演

「歯・口の健康づくり、過去・現在・未来」

公益社団法人日本学校歯科医会 会長 川本強

と き 令和3年11月20日（土） 13:00~17:00 (受付 12:30より)

ところ 福岡県歯科医師会館 5階 大ホール
福岡市中央区大名1丁目12-43 TEL 092-714-4627
及び録画配信

令和3年8月28日（土）午後2時より沖縄県主幹による九州地区学校歯科医会役員連絡協議会が、新型コロナウイルスの影響によりWeb形式にて開催された。本会から平瀬会長、岡村専務理事、菅の3名が出席した。

まず、沖縄県歯科医師会 米須敦子会長、日本学校歯科医会 川本強会長の挨拶の後、来賓挨拶として沖縄県教育委員会 金城弘昌教育長（別公務のため手紙代読）よりご挨拶頂いた。また、Web開催のため副座長は設けず、米須敦子会長に座長をお願いした。懸案の各地区提出協議題に関しては、各地区共に新型コロナウイルスの影響を大きく受けているため、コロナ禍における学校保健関連の議題が多くを占めた。特に、昼休みのブラッシング、フッ化物洗口など学校における活動は各県各地域により大きな差異があり、福岡県のように緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の対象地域となった県では大きく制限を受けている反面、比較的、感染の緩やかであった県では通常の活動を行っていた地域、学校もあるという報告もあった。

日学歯への質問、要望事項として主な点をあげると、文科省への学校保健委員会の開催の法律化への働きかけ、私立学校の学校歯科医との連携強化、基礎研修及び更新研修のEラーニング形式による開催や認定証の発行の提案、コロナ禍におけるフッ化物洗口マニュアルの作成、コロナ禍において中止されている学校での歯みがき、フッ化物洗口の有効性や必要性の周知など、各県の多様な状況を踏まえたうえで、日学歯 川本会長及び長沼専務理事と各県が議論を重ねた上、鋭意努力していく旨の回答を頂いた。

また、フッ化物洗口の推進への提言として川本会長の「WHOや厚労省によると、う蝕予防に最もエビデンスのある対処法はフッ化物洗口である」という意見が印象的だった。

最後に、次期開催県である長崎県歯科医師会 俣野副会長により、今後とも各県の協力依頼と共に、来期は新型コロナウイルス収束による対面での開催を祈念する旨の挨拶を頂き、約3時間の協議を終了した。



令和3年度 九州地区学校歯科医会役員連絡協議会（Web開催）

物 故 会 員

自 令和3年7月25日 至 令和3年10月23日

ご冥福をお祈り致します

東 春 男 72才 (久留米)

事業報告

研究・研修事業

令和3年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会

日 時 令和3年8月28日(土) 14:00~
場 所 沖縄県歯科医師会 (WEB)
出 席 者 平瀬会長・岡村専務理事・菅常務理事

第85回全国学校歯科保健研究大会

日 時 令和3年10月21日(木)・22日(金)
場 所 東京都(ライブ配信及びオンデマンド配信)
出 席 者 平瀬会長・三箇副会長・岡村専務理事
白木理事・安藤理事・入江理事
井尾監事
主 題 「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康
づくりの展開を目指して
~学校での新しい生活様式~



福岡県学校歯科医会ホームページのご案内

令和3年度の歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクールの審査結果が出ました。それに合わせ、表彰のコーナーでは本年度の作品を掲載させていただきました。

また、ダウンロードコーナーには特に優秀な作品をカレンダーとしてご利用できる様準備しております。

未完成であったQ&Aコーナーは、新たに「子どもの歯 はてな?コーナー」として県民向けの質問と回答を掲載させていただきました。

<https://fk-gakusi.jp>



編集後記

学校現場では夏休みも終わり、デルタ株等の新型コロナウイルス感染の脅威に怯えながら感染対策等に十分注意をしての新学期となっているようですね。

今年の夏は猛暑日こそ数日あったものの、非常に雨の日が多かったように感じました。

8月中旬のお盆休みを直撃した全国的な豪雨により、本県も地域によっては浸水や土砂災害が発生しました。ちょうど梅雨末期のような前線が、長期間にわたって停滞し、

線状降水帯等の影響により、九州北部では過去に類を見ない大雨をもたらし、久留米市や大牟田市などでは1,000mm近い降水量を記録し、甚大な被害に見舞われました。

私の診療所がある町でもちょうど学校医を担当している地区で土砂崩れが発生し、付近住民の日常生活や通勤・通学に多大なる影響が出ており、生活道路の寸断による道路の迂回や臨時の通学バスの導入などを余儀なくされている地区もあり、非常に心苦しく感じます。

もちろん本県以外でも、今回の大雨の被害は出ており、被害に遭われた地区の方々に心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興を願うばかりです。

広報委員会 委員 高橋 眞一

News Letter

Vol.14

毎年3回発行

発行人 平瀬 久義

発行所 〒810-0041
福岡市中央区大名1丁目12-43
福岡県学校歯科医会内
TEL 092-714-4627 FAX 092-714-7599
E-mail k-gakusi@alpha.ocn.ne.jp
U R L <https://fk-gakusi.jp>

印刷所 〒812-0065
福岡市東区二又瀬新町12-29
(株)大里印刷センター
TEL 092-611-3118 FAX 092-629-2715